

## グローバルサミット 2021

12月22日、Glocal Summit 2021 at Kaibaraを開催した。

台湾から国立台南第一高級中学校、治平高級中学校、韓国から金海外国語高校、宮崎県立飯野高校、静岡県立榛原高校、兵庫県立鳴尾高校、篠山鳳鳴高校を迎え8校の高校生が「コロナ禍が去った後、私たちはどう生きるか」という共通のテーマで話し合った。ここに至るまで、3学年のグローバル選抜者がそれぞれの学校の生徒達と話し合い、それぞれの興味のあることを聞きだしながら、その学校独自の発表テーマを決め、事前に発表動画を作成して交換し、その動画をもとに10分間で主張と質問を繰り返した。(下に当日の会議の様子と4校の動画)

金海外国語高校はコンサート、演劇、ミュージカルのような文化がコロナ禍を経てどう変わってきたか、台南第一はレストラン、半導体、農業など産業全般の動向について、治平は屋台文化を中心に食文化について、それぞれ英語・日本語を駆使して発表した。日本国内からは飯野高校が「どう生きるべきかよりもどう生きたいか」と地域との結びつきを主張し、榛原高校は海外研修に行けなくなっても英語教育を維持したい、鳴尾高校は私立・公立間で教育格差を生じてはいけない、篠山鳳鳴はデカンショなど地域文化を維持していきたいとそれぞれの視点から主張を発表した。本校3年生が、それぞれの学校に対して質問、コメントを促しスムーズな進行に努め、最後に「Change our life style (生活様式を変えよう)」「Think Globally (地球規模で考えよう)」「Cooperate (協力しよう)」と「グローバルサミット宣言」を採択して閉会した。

閉会後も別れを惜しむように、退室せずにやりとりする姿が見られ、3か月間にわたる交流による絆を感じることもできた。



サミットの様子



本校動画



榛原高校



鳴尾高校



治平高級中学

以下に生徒の感想を抜粋する。

全世界、文化、仕事、教育など様々なものが制限されている。でも、それぞれの国でそれぞれの対策があり、文化に寄り添うことができるようになった。こうして、言葉や国境の壁を越えて考えや成果を交流することで視野も広がる。何でもかんでも、「コロナでできない」ではなく、「コロナと寄り添うやりかた」を考えることが大事だと思った。

このコロナウイルス流行の影響で、いつもとは違う状況だったからこそ、この非常時に備えることへの大切さを知ることができたのだと思います。これを通じて、何かあったときのためのオンラインをもっと普及した社会をみんなで作り上げたいです。そして、日々の人とのつながりを大切にしたいです。

コロナ禍の今、世の中のことにもっと関心を持ったり、自分の英語力をもっと向上させたり、これから社会を創っていく立場として、たくさんのことを身に付けたいです。そして、コロナ禍が過ぎた後、外国の方と交流し、どういう社会、世界を作り上げていきたいか、自分の意見を述べられるようになりたいです。海外を訪れてたくさん文化に触れてみたいです。

コロナ禍では、海外へ行ったり、旅行をしたり、祭りや公演を行うことができななかったけど、コロナ禍が過ぎた後はできるようになればいいと思いました。そして、文化や伝統が引き継がれていけばいいなと思いました。今は直接海外の人と会うことはできないけど、会えなくても自分で勉強したり、オンラインでつながったりして、英語力をつける必要があると思いました。いつか海外に行けるようになったとき、スムーズにコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。

コロナウイルスは私たちの生活に大きく影響していて、でもその中でどう生きるかじゃなくて、どう生きたいのかということをも考えたいと思った。また、マイミズというアプリを使った取り組みは自分のボトルを持参するという、私達にもできることだから、自分でもやってみようと思った。コロナに関係なく、自分のできる取り組みに参加したいと思う。

コロナ禍が過ぎた後、国際交流が対面で出来るようになれば、是非参加したいと思った。国や県によって取り組みが違ったので聴いていて楽しかった。そして、韓国や台湾の人の英語と日本語がとても上手だったので、コロナが収まって国際交流が増えた時のために私も外国語を練習しておきたい。

## 第6回 地域課題から世界を考える日

1月28日、1学年から5組（一般クラス3組、知の探究コース2組）、2学年から7組（一般クラス3組、知の探究コース4組）の代表発表に加えてGlocal High School Meetings 2022（全国のグローバル型指定校の発表会）で入賞した2組が発表し、鴻谷佳彦さん、高畑由起夫先生のお二人から講評をいただいた。（発表の様子はQRコードから視聴可）

### 1学年 丹BAL I

- (1) 「丹波布で地域の活性化に取り組む」  
2組 松浪羽琉 山口 仁 廣瀬陽斗 時武佑成 待場かなめ
- (2) 「丹波の黒豆をもっと身近に」  
2組 檜皮菜奈 山下詩瀬 婦木陽加 八尾友菜 川上悠人
- (3) 「AZUKI」  
4組 柿原歩人 山崎宗 細見凜太 松井莉瑚 小泉光
- (4) 「丹波市の観光人口をどうすれば増やせるか？」  
1組 本田宙 安井柊介 安井さくら 山本愛莉 渡邊莉生
- (5) 「アウトドアで丹波を活性化」  
1組 上田優希 荻野弥空 荻野和奏 栗田耕一 小山尚真



### 2学年 丹BAL 台湾

- (1) 「日本と世界の防災」2組  
川上陽菜 河南璃香 工藤さくら 兒玉一輝 後藤輝優  
清水一樹 砂村一稀
- (2) 「感染者数が多い国と少ない国の違い～今の日本に必要なことは～」4組  
伊川ほのか 荻野若奈 坂上花音 坂口野原 清水結太  
十倉琉伊 中川祥汰
- (3) 「球磨川の水害と市島の水害から学ぶ防災」5組  
芦田庸佐 栗野浩太 石田ほのか 大西菜々香 荻野灯 酒井湖雪

### 2学年 探究Ⅱ（1組）

- (1) 「カンボジアの算数教育から学ぶ」  
梅垣朋宏 奥谷柊哉 鹿島かりん 谷垣香澄 矢尾健太郎
- (2) 「数学における協働学習が生徒に及ぼす影響について」  
伊藤茜 上見昂大 坂上心音 橋間皓士郎 畑中翔馬
- (3) 「HSPと上手に付き合う方法」  
石井 伶奈 松原 史織 宮本 莉絵

(4) 「方言をどのように次世代に伝えどのように活用するか」

池上和規 川合日向 藤原晃我



Glocal High School Meetings 2022

(1) 「Making Changes with Our Own Two Hands」(英語部門 銅賞)

3年1組 小川美那

(2) 「長崎さるく的まちあるきの実践

～学校での共通体験を通じた在丹外国人との信頼関係構築のために～

(日本語部門 金賞 文部科学省初等中等教育局長賞)

2年1組 足立悠成 足立風薫 安藤美風 高嶋深央 難波侑里 待場渚羽



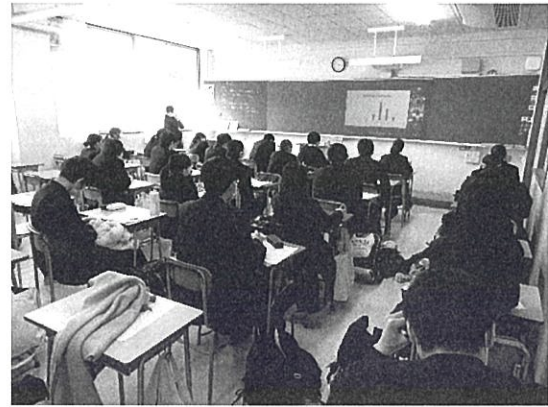
以下、発表者と視聴者の感想

梅垣朋宏 (「カンボジアの算数教育から学ぶ」)

本当はカンボジアに行きたかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で行けなかった。その分、教科書を取り寄せるなど工夫して取り組んだ。はじめは、カンボジアの教育は遅れているという先入観を持っていたが、探究を進めるにつれて、多くの新しい発見をすることができた。

探究活動を通じて、テーマをどこまで絞り込めるかが大切だと感じた。はじめは「SDGs 達成プラン」を提案しようと思っていたが、「カンボジアの算数教育から学ぶ」に絞ったことでより良い活動ができた。テーマ設定と同様に活動の時間も大切にすることで効率的に活動できたと思う。だから、探究の授業だけでなく普段から班員で濃い話し合いを行ったうえで早くテーマ設定を行えばよいと思う。

まず世界の課題に目を向け、自分達にない視点が持て、それを地域課題解決につなげることができればよいと思った。







第6回 地域課題から世界を考える日 ワークシート

2年 3組 本庄 幸

発表タイトル	メモ	コメント・疑問点
丹波市で地域の活性化に取り組む	① 和の 長田ウチ、ていれウチ 地域課題をどうやって解決するの？ SNS活用	課題者数を組み合わせて 前より入って、余力が少なくなる という心配が大きい
丹波の黒豆をちょっと身近に	丹波黒豆は薬、健康、他地 黒豆が売れない 豆の産地、収穫量が少ない お金の関係、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	他の地域の比較している ビジネスモデルは良いと思える うすところはあることは知らなかったが 中々でやるのも良い案だと思う
AZUKI	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	短の現状は、(書)亦 お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の
丹波市の観光人口を どうすれば増やせるか？	丹波市観光局 お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の
アウトドアで丹波を活性化	丹波市観光局 お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の
日本と世界の防災	防災課 教育 復興 お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の
感染症が多い国と少ない国の違い ~今の日本に必要なことは~	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の	お金の流れ、お金の流れ、お金の お金の流れ、お金の流れ、お金の

球磨川の水害と市販の水害から学ぶ 防災	① 水害 ② 水害 ③ 水害 ④ 水害 ⑤ 水害 ⑥ 水害 ⑦ 水害 ⑧ 水害 ⑨ 水害 ⑩ 水害	隊の同時発生は、避難訓練 は取り入れるべきではない、確かな 教訓以外でも、たまたまは、 地震が起きたらSNSでの連絡 が、初めに、連絡は必要がある が、初めに、連絡は必要がある が、初めに、連絡は必要がある
カンボジアの算数教育から学ぶ	① 算数 ② 算数 ③ 算数 ④ 算数 ⑤ 算数 ⑥ 算数 ⑦ 算数 ⑧ 算数 ⑨ 算数 ⑩ 算数	算数教育は、算数教育は、算数教育 は、算数教育は、算数教育は、算数教育 は、算数教育は、算数教育は、算数教育 は、算数教育は、算数教育は、算数教育
数学における図形学習が 生徒に及ぼす影響について	① 図形 ② 図形 ③ 図形 ④ 図形 ⑤ 図形 ⑥ 図形 ⑦ 図形 ⑧ 図形 ⑨ 図形 ⑩ 図形	図形学習は、図形学習は、図形学習 は、図形学習は、図形学習は、図形学習 は、図形学習は、図形学習は、図形学習 は、図形学習は、図形学習は、図形学習
HSP と上手に付き合う方法	① HSP ② HSP ③ HSP ④ HSP ⑤ HSP ⑥ HSP ⑦ HSP ⑧ HSP ⑨ HSP ⑩ HSP	HSPとは、HSPとは、HSPとは、 HSPとは、HSPとは、HSPとは、 HSPとは、HSPとは、HSPとは、 HSPとは、HSPとは、HSPとは、
方言をどのように次世代に伝 えるのか	① 方言 ② 方言 ③ 方言 ④ 方言 ⑤ 方言 ⑥ 方言 ⑦ 方言 ⑧ 方言 ⑨ 方言 ⑩ 方言	方言は、方言は、方言は、方言は、 方言は、方言は、方言は、方言は、 方言は、方言は、方言は、方言は、 方言は、方言は、方言は、方言は、
Making Changes with Our Own Two Hands	① Making ② Making ③ Making ④ Making ⑤ Making ⑥ Making ⑦ Making ⑧ Making ⑨ Making ⑩ Making	Making Changes with Our Own Two Hands Making Changes with Our Own Two Hands
長崎さくくめちあちあき ~学校での共通体験を通じた在丹外国 人との信頼関係構築のために~	① さくくめ ② さくくめ ③ さくくめ ④ さくくめ ⑤ さくくめ ⑥ さくくめ ⑦ さくくめ ⑧ さくくめ ⑨ さくくめ ⑩ さくくめ	さくくめちあちあき、さくくめちあちあき、 さくくめちあちあき、さくくめちあちあき、 さくくめちあちあき、さくくめちあちあき、 さくくめちあちあき、さくくめちあちあき、

今回の発表を聞いて自分を取り組みたいと思った、または興味を持った地域・世界の課題は何ですか？  
 地域の魅力を伝えるための取り組み、防災、防災、防災、防災、防災、防災、防災、防災、防災、防災、  
 外国との関係の差、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、  
 SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、  
 SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、SNS、

第6回 地域課題から世界を考える日 ワークシート

2年4組 氏名 井上 菜南

発表タイトル	メモ	コメント・疑問点
丹波市で地域の活性化に取り組む	丹波市は兵庫県の山間部にあり、人口は約10万人。近年、人口減少が進んでいる。地域活性化のために、観光や農業を推進している。	実際に自分たちが住んでいる地域の活性化について、具体的な取り組みや課題について、興味がある。
丹波の黒豆を売って身近に	丹波黒豆は、丹波地方の特産品。健康効果が高く、栄養価が高い。地域活性化のために、黒豆を売って、地域を活性化しようとしている。	黒豆の健康効果や、地域活性化の取り組みについて、興味がある。
AZUKI	黒豆の健康効果や、地域活性化の取り組みについて、興味がある。	黒豆の健康効果や、地域活性化の取り組みについて、興味がある。
丹波市の観光人口をどうすれば増やせるか?	丹波市の観光人口を増やすためには、観光資源を有効活用し、観光客を呼び込む必要がある。	観光人口を増やすための具体的な取り組みや課題について、興味がある。
アウトドアで丹波を活性化	丹波地方は、自然豊かな地域。アウトドア活動を通じて、丹波を活性化しようとしている。	アウトドア活動を通じて、丹波を活性化するための具体的な取り組みや課題について、興味がある。
日本と世界の防災	日本は、自然災害が多い国。防災対策を強化し、災害被害を軽減しようとしている。	防災対策の重要性や、具体的な取り組みについて、興味がある。
感染者数が多い国と少ない国の違い	感染者数が多い国と少ない国の違いは、医療体制や生活習慣の違いによる。	感染者数の違いの理由や、具体的な取り組みについて、興味がある。

球根川の水害と市島の水害から学ぶ 防災	丹波市・龍野市 龍野市 → 住居分散 水害の原因は、大雨による土砂崩れや、河川の氾濫による。	水害の原因は、大雨による土砂崩れや、河川の氾濫による。防災対策として、河川の整備や、避難所の確保が必要。
カンボジアの算数教育から学ぶ	カンボジアの算数教育は、生活に密着した実践的な学習が行われている。	カンボジアの算数教育は、生活に密着した実践的な学習が行われている。日本の算数教育と比較して、実践的な学習が重視されている。
数学における脳科学の活用	数学の学習は、脳の発達を促進する効果がある。	数学の学習は、脳の発達を促進する効果がある。脳科学の活用により、数学の学習効果を高めることができる。
HSPと上手に付き合う方法	HSPは、高敏感な人の特性。上手に付き合うことで、強みを活かすことができる。	HSPは、高敏感な人の特性。上手に付き合うことで、強みを活かすことができる。具体的な付き合い方について、興味がある。
方言をどのように次世代に伝えるか	方言は、地域の文化の宝。次世代に伝えるためには、教育やメディアを活用する必要がある。	方言は、地域の文化の宝。次世代に伝えるためには、教育やメディアを活用する必要がある。具体的な取り組みについて、興味がある。
Making Changes with Our Own Two Hands	自分たちの力で社会を変えていく。小さなことから始めることが大切。	自分たちの力で社会を変えていく。小さなことから始めることが大切。具体的な取り組みについて、興味がある。
長崎さくら餅のまちあるきの実践	長崎さくら餅のまちあるきを通じて、地域の魅力を発信し、観光客を呼び込む。	長崎さくら餅のまちあるきを通じて、地域の魅力を発信し、観光客を呼び込む。具体的な取り組みについて、興味がある。

今回の発表を聞いて自分が取り組みたいと思った、または興味を持った地域、世界の課題は何ですか?

至るまで、防災、水害の原因は、大雨による土砂崩れや、河川の氾濫による。防災対策として、河川の整備や、避難所の確保が必要。カンボジアの算数教育は、生活に密着した実践的な学習が行われている。日本の算数教育と比較して、実践的な学習が重視されている。数学の学習は、脳の発達を促進する効果がある。脳科学の活用により、数学の学習効果を高めることができる。HSPは、高敏感な人の特性。上手に付き合うことで、強みを活かすことができる。具体的な付き合い方について、興味がある。方言は、地域の文化の宝。次世代に伝えるためには、教育やメディアを活用する必要がある。具体的な取り組みについて、興味がある。自分たちの力で社会を変えていく。小さなことから始めることが大切。具体的な取り組みについて、興味がある。長崎さくら餅のまちあるきを通じて、地域の魅力を発信し、観光客を呼び込む。具体的な取り組みについて、興味がある。



「地域課題から世界を考える日」の午後、本年度第2回の運営委員会もオンラインで行われた。そこで受けた質問、助言を以下にまとめた。(敬称略・本校職員の発言は省く)

中瀬 勲 (兵家県立人と自然の博物館 館長)

プレゼン・コミュニケーション力をぜひ身に付けてほしい。15人もの講師が関わった「丹波BAL」の取り組みは評価したい。インターアクト部の取り組みの中にあつた「バリアフリー」という概念は「ユニバーサルアクセス」というところまで広げては？一つの取り組みとして、高校生が高齢者へ聴き取りを行つてはどうかと思う。自著「たかつきのまち」を書いていて気付いたことは、「明治以降の近代史が街から欠落している」ということ。過去の人々からヒアリングすることで歴史を残してほしい。高齢者への聞き取り(回想法)によるオーラルヒストリーに加えて、昔の写真を集めるなどして「丹波の現近代を探る」というのはどうだろうか？今回発表した地域の魅力に歴史を絡めることを提案する。

Rooks Matthew John (神戸大学海事学部 准教授)

オンライン交流は非常に興味深かつた。特に台湾との交流が一度のイベントに終わらず、継続的に行われたことを評価したい。授業や発表会の中の決められた枠での交流はもちろんだが、前回のサミット後に見られたような、ささいなやりとりの時間が貴重だと思ふ。

柳川 拓三 (丹波市観光協会 会長)

昔、私たちの時代は地域のことを知つて外の世界へ出て行つたが、今はネット上に情報はあふれていて、海外のことでも知れるようになった。しかし、知識だけでは役に立たずそれをいかに活用できるかが大切だと思ふ。高畑先生の講評にもあつたが「気づき」が大切になる。ビジネスの世界では「結果を出す」ことが求められ、「商品力」「販売力」の2つの側面がある。商品が良くても、宣伝の仕方が悪くて売れない場合もあるが、逆にたいした商品でなくてもプレゼンがよくて結果を残す場合もある。それが良いのかは疑問だが。

来年、JR6社がキャンペーンを行う予定で、西日本も兵庫に客を呼び込むことを考えている。その中で、その地域にしかないもの(テロワール)に着目したい。つまり、文化や食べ物を育んだ風土のことで、その地域でなければ生まれなかつたものがあるはず。足元を見つめるという意味で、柏原高校のこの取り組みは地元にとってありがたいことだと思つている。

蘆田 典幸 (兵庫県教育委員会事務局高等教育課 指導主事)

3年間の事業を進めてこられたことをまずは労いたい。うまくいったことも、いかなかつたことも全て生徒の成長につながるよう、今後活かしていただきたい。学校現場はビジネ

スではないが、生徒に安心して失敗する場を与え、実社会（ビジネス）で失敗すればこんなリスクもあるということを、教えられるようにできればよいと思う。

鴻谷 佳彦（NPO 法人 Imagine 丹波 理事長）

授業に伴走してきて、「伝える」「調べる」「合意する」という要素のうち、一番弱いのが「調べる」力だと感じている。情報収集において、興味のないことについて調べるのが弱いのは仕方ないが、人を説得するのに必要な、都合の良い情報すらきちんと集められない。例えば「お金をどれくらいかけるのか」「誰がそのお金を払うのか」という根本的なところを調べるべきだと思う。講評でも言わせてもらったが、「これくらいでいいか」というところで止めている。高畑先生の話に、磨けば宝石に変わる原石を見つけるという話があったが、磨き方が足りないのだと思う。やり方としては、スキルを一通り学ぶのも良いが、「発表を繰り返す中で、足りない部分を知る」ということを勧めたい。デジタル機器の普及に伴い、他人からの評価も瞬時に得られるようになっている。ぜひ活用されてはどうだろうか？ PDCA のサイクルを何回回せるかだと思っている。

荻野 雅文（丹波市ふるさと創造部 ふるさと定住促進課 定住促進係長）

地域との協働という取り組みを、一時的なイベントに留めず、授業の中に落とし込んでいるのがすばらしい。コロナ禍で始まったオンラインもうまく活かし、ツールとしてうまく活用できているようである。この探究での学びを教科の中に活かしていくためには、先生方のコミュニケーションが必要だろう。この内への深まりを外への広がりへとさらにつなげてもらいたい。丹波市にある地域資源に対しては、大学からもフィールドワークに訪れており、市ではその受け入れ態勢を考えているところだ。

今回の発表会を聴いていると、以前よりも「私たちが」という言葉を使う生徒が増えていた。主体的に考えている証拠であり、次のアクションに期待したい。

高畑 由起夫（関西学院大学 フェロー）

これまで7つの高校と関わりを持ってきた。現在は4つに減っているが、なぜこれ続けているかという、「高校生の気づきが面白い」からだ。講評でも申し上げたように宝石の原石を見つけて磨いてほしい。

様々な高校のやり方があり、これという決まった形があるわけでもない。教育法についてもトップダウンなのかボトムアップなのか？についても意見は分かれる。個人研究がよいのか、グループ研究が良いのかについても然り。先ほどの議論でも、教科書に沿って研究方法を身に付けてから調査に出るといった話があったが、自分はまずフィールドワークに出る方だ。頭の中に決まったやり方が入ってしまうと、自分で見聞きした情報が型どおりに収まってしまふ。色々な観点から見ると時にはそれが邪魔な時もある。

探究活動に関わってくると、日本の中等教育の在り方についても見えてくる。例を挙げる

と大阪の豊中高校のように大学進学を一番にうたう学校では探究にそれほど力を入れていない。ところが、柏原高校はかつて実業高校の役割であった地域を担う若者づくりという役割も期待されている。地元を理解してグローバルに活躍するという「Glocal」の狙いは、立場的に合致している。この事業が終わった後も活かして欲しい。

課題としては、かつて知の探究コースだけが行っていた探究活動を全クラスに広げたことで、どのようなシステムにしていくのか、議論が必要だと思われる。

これまで、運営委員会で受けた助言をもとにいくつか改善してきた。下に主なものを列挙する。

- (1) 知の探究コースの取り組みを全クラスで展開した。
- (2) 一般クラスの1学年で取り組んでいた「柏原高校の歴史」「地域の人々」といったテーマを「地域の魅力」に統一した。
- (3) 海外交流で全校生徒にリアルタイムで交流する機会を作った。
- (4) 本校を中心に国内外の学校がつながる交流を持った。
- (5) 動画作成による文化・地域紹介を行った。

(1) は昨年度からの「丹 BAL I」であるが、地域の人たちの支援があってこそその取り組みであり、本校の持つ大きな財産である。(2) の「歴史」「地域の人たちへの聞き取り」は、今回の運営委員会の中で「近現代史を調べること」「高校生と高齢者の交流」などの意見から復活させてもよいのかと考えられる。(3) は2学年の「丹 BAL 台湾」で行ったオンライン交流、3学年の「グローカル」での取り組み、グローカルサミットを通じて実現した。そのグローカルサミットが(4) であり、(5) でもある。特に生徒たちは私達よりも簡単に動画作成することに慣れており、YouTube や TikTok など日常的に利用していることから、今後も有効な交流手段になると考えられる。

## 生徒意識調査

ここでは、生徒の自己評価・意識調査について述べる。

丹 BAL I、丹 BAL 台湾、探究Ⅱ、総合Ⅲの各科目において、以下のような項目をマークシート形式で調査した。(調査日：2021年12月21日)

まずは、それぞれの科目に用いた調査内容を掲載する。ただし、設問番号 21～77 と自由記述は昨年度と共通としたため、文頭の文言や設問番号 21～77 は「丹 BAL I (1 組)」を除いて、省略している。

### ○丹 BAL I (1 組(知の探究コース))

#### 丹 BAL I (1 組) についての自己評価・意識調査

この調査は、一年間の「丹 BAL I」の時間を通じて、皆さんがどのような力を身に付けたと感じているか、また、その活動内容についてどう考えているかについて調べるものです。

自己評価の項目は、通知表や調査書に記載する所見の参考資料とします。

活動内容については、今後の「丹 BAL I」をどう進めるかの参考資料にします。

#### 1 <自己評価>

あなたは今年度の「丹 BAL I」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度身についたと感じていますか。以下の4つの項目をマークしてください。

① 力がついた ② ある程度ついた ③ あまりついていない ④ ついていない

##### (1) 「探究活動の進め方に関する基礎学習」(講義・Start book) について

- |         |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|
| 1 聴く力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 2 読む力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 3 考える力  | ① | ② | ③ | ④ |
| 4 伝える力  | ① | ② | ③ | ④ |
| 5 発表する力 | ① | ② | ③ | ④ |

##### (2) 「テーマ別の探究活動に関する共同研究」(調べ学習・プレゼン) について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 6 聴く力    | ① | ② | ③ | ④ |
| 7 読む力    | ① | ② | ③ | ④ |
| 8 考える力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 9 伝える力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 10 発表する力 | ① | ② | ③ | ④ |

##### (3) 「校外への活動」(フィールドワーク・各種発表会参加) について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 11 聴く力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 12 読む力   | ① | ② | ③ | ④ |
| 13 考える力  | ① | ② | ③ | ④ |
| 14 伝える力  | ① | ② | ③ | ④ |
| 15 発表する力 | ① | ② | ③ | ④ |

#### 2 <内容・活動についての意識>

(1)

<p>「丹 BAL I」で学習した内容や取り組んだ活動について、どのように感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。</p> <p>① とても良かった ② ある程度良かった ③ あまり良くなかった ④ 良くなかった</p>	
16 大西伸弘さん講演会(柏原高校の歴史)	① ② ③ ④
17 「課題研究メソッド Start book」を用いた手法学習	① ② ③ ④
18 班別で取り組んだ探究活動	① ② ③ ④
19 小川周平さんの講演会(伝わる発信力)	① ② ③ ④
20 発表会などでのプレゼンテーション	① ② ③ ④
(2)	
<p>「丹 BAL I」の時間を通じて、以下のどの項目ができる(ようになった)と感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。</p> <p>① できる ② ある程度できる ③ あまりできない ④ できない</p>	
21 主体的に調べものや取材を行う	① ② ③ ④
22 学校外の色々な人たちに話を聴きに行く	① ② ③ ④
23 グループで協力しながら学習や調べものを行う	① ② ③ ④
24 活動、学習内容について友だちと話し合う	① ② ③ ④
25 活動、学習内容について大人(教員、地域)と話し合う	① ② ③ ④
26 自分の考えを文章や図表にまとめる	① ② ③ ④
27 話し合った内容をまとめる	① ② ③ ④
28 活動、学習内容を発表する	① ② ③ ④
29 生徒同士で活動、学習した内容の振り返りを行う	① ② ③ ④
30 地域の魅力や資源について考える	① ② ③ ④
31 地域の課題の解決方法について考える	① ② ③ ④
32 日本や世界の課題の解決方法について考える	① ② ③ ④
33 授業で分からない事を、自分から質問し、わかる人に聞く	① ② ③ ④
34 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べる	① ② ③ ④
35 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求める	① ② ③ ④
36 友人などから、意見やアドバイスを求められて共に考える	① ② ③ ④
37 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えて、調べる	① ② ③ ④
38 公式や決まりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりする	① ② ③ ④
39 今住んでいる地域の行事に参加する	① ② ③ ④
40 地域社会などでボランティア活動に参加する	① ② ③ ④
<p>③&lt;自己能力についての認識&gt;</p> <p>現在の自分の能力や性質についてどのように感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。</p> <p>① あてはまる ② ある程度あてはまる ③ あまりあてはまらない ④ あてはまらない</p>	
41 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる	① ② ③ ④
42 自分で計画を立てて活動することができる	① ② ③ ④

<p>生徒意識調査</p>	
43 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる	① ② ③ ④
44 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	① ② ③ ④
45 相手の意見を丁寧に聴くことができる	① ② ③ ④
46 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	① ② ③ ④
47 友達の前で発表することは得意である	① ② ③ ④
48 共同作業で自分の力が発揮できる	① ② ③ ④
49 家で、自主的に学習することができる	① ② ③ ④
50 教科書外で得た情報を、勉強したと関連付けて理解できる	① ② ③ ④
51 勉強したものを実際に応用してみることができる	① ② ③ ④
52 複雑な問題を順序だてて考えることが得意である	① ② ③ ④
53 自分を客観的に理解することができる	① ② ③ ④
54 国や地域の担い手として、政策決定に携わりたい	① ② ③ ④
55 地域をよりよくなるため、地域の問題にかかわりたい	① ② ③ ④
56 将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい	① ② ③ ④
57 自分が関わることで社会は変えられると思っている	① ② ③ ④
58 社会の出来事に関心がある	① ② ③ ④
59 選挙権を得たら、投票に行く	① ② ③ ④
60 地域の課題と世界の課題は関連していると思う	① ② ③ ④
61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい	① ② ③ ④
62 将来、自分の今住んでいる地域で働きたい	① ② ③ ④
63 地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい	① ② ③ ④
64 自分の将来について明るい希望を持っている	① ② ③ ④
65 自分には良いところがある	① ② ③ ④
66 今の自分に満足している	① ② ③ ④
67 柏原高校に来てよかったと思っている	① ② ③ ④
<p>④&lt;地域の学習環境について意識&gt;</p> <p>自分たちが住んでいる地域についてどのように感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。</p> <p>① あてはまる ② ある程度あてはまる ③ あまりあてはまらない ④ あてはまらない</p>	
68 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	① ② ③ ④
69 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある	① ② ③ ④
70 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	① ② ③ ④
71 地域に尊敬する・あこがれている大人がいる	① ② ③ ④
72 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	① ② ③ ④
73 自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる	① ② ③ ④
74 人と違うことが尊重される雰囲気がある	① ② ③ ④
75 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	① ② ③ ④
76 自分と異なる立場、役割を持つ人とのかかわりがある	① ② ③ ④

77	将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	1	2	3	4
<b>5</b> ＜探究活動全般に関して＞					
探究活動全般について、難しかったことや困ったこと、うまくいったことなど自由に書いてください。 (マークシートに記述すること)					

18	小川周平さんの講演会(伝わる発信力)	1	2	3	4
19	おすぞわけ(講師(テーマ)別の探究活動)	1	2	3	4
20	発表会	1	2	3	4
(以下、略)					

## ○探究Ⅱ

丹 BAL I についての自己評価・意識調査							
(前略)							
<b>1</b> ＜自己評価＞							
あなたは今年度の「丹 BAL I」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度ついたと感じていますか。 以下の4つの項目をマークしてください。							
1	力がついた	2	ある程度ついた	3	あまりついていない	4	ついていない
(1) 「地域の魅力を持ち寄ろう」(小中学校での調べ学習の振り返りと共有) について							
1	聴く力	1	2	3	4		
2	読む力	1	2	3	4		
3	考える力	1	2	3	4		
4	伝える力	1	2	3	4		
5	発表する力	1	2	3	4		
(2) 「講演会」(大西伸弘さん(柏原高校の歴史)、小川周平さん(伝わる発信力)) について							
6	聴く力	1	2	3	4		
7	読む力	1	2	3	4		
8	考える力	1	2	3	4		
9	伝える力	1	2	3	4		
10	発表する力	1	2	3	4		
(3) 「おすぞわけ」(講師(テーマ)別の探究活動) について							
11	聴く力	1	2	3	4		
12	読む力	1	2	3	4		
13	考える力	1	2	3	4		
14	伝える力	1	2	3	4		
15	発表する力	1	2	3	4		
<b>2</b> ＜丹 BAL I の内容・活動についての意識＞							
(1)							
「丹 BAL I」で学習した内容や取り組み組んだ活動について、どのように感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。							
1	とても良かった	2	ある程度良かった	3	あまり良くなかった	4	良くなかった
16	大西伸弘さんの講演会(柏原高校の歴史)	1	2	3	4		
17	地域の魅力を持ち寄ろう	1	2	3	4		

探究Ⅱについての自己評価・意識調査							
(前略)							
<b>1</b> ＜自己評価＞							
あなたは今年度の「探究Ⅱ」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度身についたと感じていますか。 以下の4つの項目をマークしてください。							
1	力がついた	2	ある程度ついた	3	あまりついていない	4	ついていない
(1) 「地域課題に関する研究」(調べ学習・プレゼン) について							
1	聴く力	1	2	3	4		
2	読む力	1	2	3	4		
3	考える力	1	2	3	4		
4	伝える力	1	2	3	4		
5	発表する力	1	2	3	4		
(2) 「課題研究の進め方に関する学習」(高畑由起夫先生の講義・課題研究メソッド) について							
6	聴く力	1	2	3	4		
7	読む力	1	2	3	4		
8	考える力	1	2	3	4		
9	伝える力	1	2	3	4		
10	発表する力	1	2	3	4		
(3) 「校外での課題研究活動」(フィールドワーク・各種発表会参加、見学) について							
11	聴く力	1	2	3	4		
12	読む力	1	2	3	4		
13	考える力	1	2	3	4		
14	伝える力	1	2	3	4		
15	発表する力	1	2	3	4		
<b>2</b> ＜内容・活動についての意識＞							
(1)							
「探究Ⅱ」で学習した内容や取り組み組んだ活動について、どのように感じていますか。 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。							
1	とても良かった	2	ある程度良かった	3	あまり良くなかった	4	良くなかった
16	各自がテーマを持って取り組んだ地域課題解決学習	1	2	3	4		
17	「課題研究メソッド」を用いた手法学習	1	2	3	4		
18	専門家や地域の方々と訪問・インタビュー活動	1	2	3	4		

- 19 校外へ出かけたフィールドワーク 1 2 3 4  
 20 中間発表・マイプロジェクトなどのプレゼンテーション (以下、略) 1 2 3 4

○丹 BAL 台湾

丹 BAL 台湾についての自己評価・意識調査

(前略)

1<自己評価>

あなたは今年度の「丹 BAL 台湾」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度ついたと感じていますか。以下の4つの項目をマークしてください。

1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1)「台湾とは何か」(講読、著者・野嶋剛さんの講義、後藤みなみさんの講演)について

- 1 聴く力 1 2 3 4  
 2 読む力 1 2 3 4  
 3 考える力 1 2 3 4  
 4 伝える力 1 2 3 4  
 5 発表する力 1 2 3 4

(2)防災学習について

- 6 聴く力 1 2 3 4  
 7 読む力 1 2 3 4  
 8 考える力 1 2 3 4  
 9 伝える力 1 2 3 4  
 10 発表する力 1 2 3 4

(3)台湾の高校との交流(オンライン・動画作成)について

- 11 聴く力 1 2 3 4  
 12 読む力 1 2 3 4  
 13 考える力 1 2 3 4  
 14 伝える力 1 2 3 4  
 15 発表する力 1 2 3 4

2<「丹 BAL 台湾」の内容・活動についての意識>

(1)

「丹 BAL 台湾」で学習した内容や取り組んだ活動について、どのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

16 「台湾とは何か」講読 1 2 3 4

17 講演会(後藤みなみさん、野嶋剛さん) 1 2 3 4

18 防災学習 1 2 3 4

19 台湾の高校生とのオンライン交流 1 2 3 4

- 20 動画作成 (以下、略) 1 2 3 4

○総合Ⅲ

総合Ⅲについての自己評価・意識調査

(前略)

1<自己評価>

あなたは今年度の「総合Ⅲ」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度ついたと感じていますか。以下の4つの項目をマークしてください。

1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1)「スピーチ」(他己紹介)について

- 1 聴く力 1 2 3 4  
 2 読む力 1 2 3 4  
 3 考える力 1 2 3 4  
 4 伝える力 1 2 3 4  
 5 発表する力 1 2 3 4

(2)「面接」(企業・大学)について

- 6 聴く力 1 2 3 4  
 7 読む力 1 2 3 4  
 8 考える力 1 2 3 4  
 9 伝える力 1 2 3 4  
 10 発表する力 1 2 3 4

(3)「小論文」(講座別)について

- 11 聴く力 1 2 3 4  
 12 読む力 1 2 3 4  
 13 考える力 1 2 3 4  
 14 伝える力 1 2 3 4  
 15 発表する力 1 2 3 4

2<「総合Ⅲ」の内容・活動についての意識>

(1)

「総合Ⅲ」で学習した内容や取り組んだ活動について、どのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

16 スピーチ(他己紹介) 1 2 3 4

17 面接(企業) 1 2 3 4

18 面接(大学) 1 2 3 4

19 小論文 1 2 3 4

20 小論文ではどの分野を選択しましたか。次の6つから選んでマークしてください。

1 教育・保育 2 看護・医療技術 3 人文科学 4 社会科学 5 自然科学 6 生活科学  
(以下、略)

ここからは、上記項目における結果についてまとめていく。  
総合Ⅲにおいては、指定3年間を通して初めての調査となっている。この結果分析では、3年間の指定事業全体を経験した生徒らの意識の変容が見られるのではないかと期待するところである。

設問番号1～20は今年度行った内容に対して、生徒らがどのような力が身に付いたかを自己評価するものであった。昨年度とは指導内容も少し異なっているため、同年におけるクラス間および昨年の数値との比較を主たるねらいとして並べた。左に1組(知の探究コース)、右に一般クラスを並べ、各項目の数値について、上段に今年度(R3)調査、下段に過年度(R2)調査としている。

前年度と同じ項目と設問番号21～77については、今年度の結果とともに昨年度の数値を並べることによってクラス間や経年比較ができるように試みた。今年度(R3)調査の2年生の結果が、昨年度(R2)調査での1年生の結果と比較して向上・低下しているかについて試みてみることで並べた。紙面の都合上、グラフ化せずに数値を並べるに留まってしまうが、これだけでも多くのことが見て取れると考えている。

なお、以下の表における数値は回答数に対する割合とし、未回答の割合はここにあげていない。加えて、小数第1位を四捨五入しているため、各項目の割合の合計が100にならないこともある。

まずは、項目1～20についてまとめる。

○丹 BAL I

1 <自己評価>それぞれの力がどの程度ついたと感じているか

回答数		40(1組)		R3		158(2～5組)	
		38(1組)		R2		195(2～6組)	
1 力がついた		2 ある程度ついた		3 あまりついていない		4 ついていない	
(1)「探究活動の進め方に関する基礎学習」							
番号	内容	1	2	3	4	番号	内容
1	聴く力	15%	68%	15%	3%	R3	1 聴く力
		29%	68%	3%	0%	R2	
2	読む力	5%	63%	28%	5%	R3	2 読む力
		5%	71%	21%	3%	R2	
3	考える力	40%	48%	13%	0%	R3	3 考える力
		13%	71%	16%	0%	R2	
4	伝える力	28%	48%	20%	5%	R3	4 伝える力
		3%	66%	26%	5%	R2	
5	発表する力	25%	48%	20%	8%	R3	5 発表する力
		16%	55%	26%	3%	R2	
(1)「テーマ別の探究活動に関する共同研究」							
(注：R2 調査は異なる) 「講演会」							
番号	内容	1	2	3	4	番号	内容
16	高校の歴史	33%	43%	23%	3%	R3	16 高校の歴史
		3%	71%	16%	11%	R2	
17	手法学習	15%	43%	40%	3%	R3	17 地域の魅力
		5%	61%	26%	8%	R2	
18	班別活動	78%	18%	5%	0%	R3	18 講演会
		68%	29%	0%	3%	R2	
19	講演会	43%	48%	8%	3%	R3	19 おすそわけ
		50%	45%	5%	0%	R2	
20	発表会	53%	48%	0%	0%	R3	20 発表会
		55%	37%	3%	3%	R2	

2 <内容・活動についての意識>学習した内容や取り組んだ活動について、どのよう感じているか

1 とても良かった		2 ある程度良かった		3 あまり良くなかった		4 良くなかった	
番号	内容	1	2	3	4	番号	内容
11	聴く力	38%	48%	13%	3%	R3	11 聴く力
		76%	18%	5%	0%	R2	
12	読む力	10%	43%	33%	15%	R3	12 読む力
		18%	58%	24%	0%	R2	
13	考える力	30%	53%	15%	3%	R3	13 考える力
		45%	42%	11%	3%	R2	
14	伝える力	23%	58%	18%	3%	R3	14 伝える力
		39%	39%	18%	3%	R2	
15	発表する力	18%	60%	18%	5%	R3	15 発表する力
		29%	47%	21%	3%	R2	
(3)「おすそわけ」							
16	高校の歴史	33%	43%	23%	3%	R3	16 高校の歴史
		3%	71%	16%	11%	R2	
17	手法学習	15%	43%	40%	3%	R3	17 地域の魅力
		5%	61%	26%	8%	R2	
18	班別活動	78%	18%	5%	0%	R3	18 講演会
		68%	29%	0%	3%	R2	
19	講演会	43%	48%	8%	3%	R3	19 おすそわけ
		50%	45%	5%	0%	R2	
20	発表会	53%	48%	0%	0%	R3	20 発表会
		55%	37%	3%	3%	R2	



○丹 BAL II (探究 II・丹 BAL 台湾)

1<自己評価>それぞれの力がどの程度ついたらと感じているか

回答数		39 (1組)		R3		196 (2~6組)	
		32 (1組)		R2		175 (2~6組)	
1 力がついたら 2 ある程度ついたら 3 あまりついでいない 4 ついていない							
(1) 「地域課題に関する研究」							
(1) 「台湾とは何か」(注: R3 は講演会を含む。R2 は文献購読のみ)							
番号	内容	1	2	3	4	番号	内容
1	聴く力	41%	41%	15%	3%	R3	1 聴く力
		44%	38%	13%	6%	R2	2 読む力
2	読む力	28%	51%	21%	0%	R3	3 考える力
		25%	66%	9%	0%	R2	4 伝える力
3	考える力	44%	54%	3%	0%	R3	5 発表する力
		50%	47%	3%	0%	R2	
4	伝える力	33%	49%	18%	0%	R3	
		44%	47%	9%	0%	R2	
5	発表する力	44%	51%	5%	0%	R3	
		50%	38%	13%	0%	R2	
(2) 「課題研究の進め方に関する学習」							
(2) 「防災学習」(注: R2 調査は異なる)「講演会」							
6	聴く力	26%	51%	18%	5%	R3	6 聴く力
		25%	63%	13%	0%	R2	7 読む力
7	読む力	13%	49%	31%	8%	R3	8 考える力
		19%	47%	34%	0%	R2	9 伝える力
8	考える力	31%	38%	23%	8%	R3	10 発表する力
		25%	63%	13%	0%	R2	
9	伝える力	15%	54%	23%	8%	R3	
		16%	41%	34%	9%	R2	
10	発表する力	21%	51%	21%	8%	R3	
		16%	47%	25%	13%	R2	
(3) 「校外での課題研究活動」							
(3) 「台湾の高校との交流」							
11	聴く力	54%	26%	13%	8%	R3	11 聴く力
		63%	25%	9%	3%	R2	12 読む力
12	読む力	13%	49%	26%	13%	R3	13 考える力
		9%	50%	34%	3%	R2	14 伝える力
13	考える力	41%	41%	10%	8%	R3	
		50%	38%	9%	3%	R2	
14	伝える力	23%	59%	10%	8%	R3	
						R2	

		59%	22%	16%	3%	R2			41%			6%
15	発表する力	36%	38%	18%	8%	R3	15	発表する力	20%	49%	24%	6%
		41%	34%	22%	3%	R2			21%	48%	23%	8%

2<内容・活動>についての意識>学習した内容や取り組みだ活動について、どのように感じているか

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった												
番号	内容	1	2	3	4	番号	内容	1	2	3	4	
16	課題研究学習	46%	44%	8%	3%	R3	16	文献購読	19%	56%	20%	5%
		50%	44%	3%	3%	R2			13%	67%	18%	2%
17	手法学習	13%	41%	33%	8%	R3	17	講演会	32%	58%	7%	3%
		25%	41%	31%	3%	R2			27%	59%	10%	3%
18	インタビュー	38%	44%	19%	5%	R3	18	防災学習	30%	62%	7%	1%
		59%	34%	0%	6%	R2			42%	47%	9%	2%
19	フィールドワーク	31%	36%	23%	8%	R3	19	現地との交流	42%	44%	10%	4%
		56%	34%	3%	6%	R2			55%	29%	11%	5%
20	発表	33%	51%	13%	3%	R3	20	動画作成	26%	53%	18%	4%
		50%	41%	6%	0%	R2			43%	44%	10%	3%

○総合 III (R3 調査のみ)

1<自己評価>それぞれの力がどの程度ついたらと感じているか

回答数		181 (2~6組)	
1 力がついたら 2 ある程度ついたら 3 あまりついでいない 4 ついていない			
(1) 「スピーチ」			
1	聴く力	34%	59%
2	読む力	20%	55%
3	考える力	36%	52%
4	伝える力	37%	52%
5	発表する力	35%	49%
(3) 「小論文」			
11	聴く力	12%	41%
12	読む力	54%	39%
13	考える力	58%	35%
14	伝える力	34%	48%
15	発表する力	9%	43%

2<内容・活動>についての意識>学習した内容や取り組みだ活動について、どのように感じているか

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

番号	内容	1	2	3	4	
16	スピーチ	39%	52%	8%	1%	
17	面接1	27%	51%	20%	2%	
18	面接2	41%	50%	8%	2%	
19	小論文	39%	52%	9%	0%	
1 教育・保育 2 看護・医療技術 3 人文科学 4 社会科学 5 自然科学 6 生活科学						
20 小論文分野選択						
	1	2	3	4	5	6
	10%	34%	15%	22%	9%	9%

続いて、21～77についてまとめとめる。これまでにまとめてきた1～20とは並びを異にしているため、回答数を改めてまとめとめる。

各年度の調査回答数	R3調査	R2調査	R1調査
知の探究コース	1年生 40	38	
	2年生 39	32	
	3年生 ×	×	
一般クラス	1年生 158	195	
	2年生 196	175	
	3年生 181	×	

以下、表中の数値は上記の回答数における割合で表す。

2<内容・活動についての意識> (2) 授業を通じて、できる(ようになった)と感じているか

番号	内容	選択肢 (R3調査)				選択肢 (R2調査)						
		1	2	3	4	1	2	3	4			
21	主体的に調べものや取材を行う	知の探究コース	1年	28%	58%	15%	0%	R2 1年	37%	50%	11%	3%
			2年	33%	64%	3%	0%	R2 2年	63%	31%	6%	0%
			3年	32%	54%	13%	1%	R2 3年	26%	54%	18%	1%
		一般クラス	1年	27%	53%	18%	3%	R2 1年	25%	57%	14%	4%
			2年	22%	52%	23%	3%	R2 2年				
			3年	22%	52%	23%	3%	R2 3年				
22	学校外の色々な人たちに話を聴きに行く	知の探究コース	1年	28%	48%	23%	3%	R2 1年	32%	50%	13%	5%
			2年	31%	36%	21%	13%	R2 2年	44%	31%	22%	3%
			3年	26%	44%	24%	6%	R2 3年	15%	25%	42%	18%
		一般クラス	1年	5%	38%	39%	18%	R2 1年	8%	36%	38%	18%
			2年	8%	24%	35%	32%	R2 2年				
			3年	8%	24%	35%	32%	R2 3年				
23	グループで協力しながら学習や調べものを行う	1年	55%	38%	5%	3%	R2 1年	71%	26%	0%	3%	
		2年					R2 2年					

24	活動、学習内容について友達と話し合う	2年	49%	41%	10%	0%	R2 2年	50%	34%	9%	6%
		1年	53%	41%	5%	0%	R2 1年	48%	43%	8%	1%
		2年	41%	43%	13%	3%	R2 2年	52%	37%	10%	1%
		3年	30%	54%	13%	4%	R2 3年				
25	活動、学習内容について大人(教員、地域)と話し合う	1年	45%	53%	0%	0%	R2 1年	63%	32%	3%	3%
		2年	46%	44%	10%	0%	R2 2年	56%	31%	13%	0%
		1年	49%	44%	7%	0%	R2 1年	45%	48%	6%	1%
		2年	37%	50%	9%	4%	R2 2年	47%	43%	7%	1%
26	自分の考えを文章や図表にまとめ	1年	20%	65%	15%	0%	R2 1年	21%	58%	16%	5%
		2年	21%	56%	21%	3%	R2 2年	50%	38%	6%	6%
		1年	23%	53%	23%	1%	R2 1年	16%	44%	35%	5%
		2年	12%	44%	33%	10%	R2 2年	10%	45%	37%	9%
27	話し合った内容をまとめ	1年	13%	53%	33%	3%	R2 1年	32%	50%	16%	3%
		2年	38%	51%	10%	0%	R2 2年	34%	63%	3%	0%
		1年	23%	59%	16%	1%	R2 1年	18%	51%	27%	4%
		2年	16%	49%	30%	5%	R2 2年	28%	53%	16%	2%
28	活動、学習内容を発表する	1年	31%	46%	20%	2%	R2 1年				
		2年	23%	62%	13%	1%	R2 2年				
		1年	23%	68%	10%	0%	R2 1年	24%	58%	16%	3%
		2年	28%	54%	18%	0%	R2 2年	44%	50%	6%	0%
29	生徒同士で活動、学習した内容の振り返りを行う	1年	28%	61%	10%	0%	R2 1年	33%	48%	18%	1%
		2年	21%	56%	18%	5%	R2 2年	33%	53%	11%	3%
		1年	18%	50%	33%	0%	R2 1年	16%	63%	13%	8%
		2年	18%	54%	21%	8%	R2 2年	13%	63%	16%	9%

30	一般クラス	1年	28%	53%	18%	1%	17%	47%	30%	6%		
		2年	14%	55%	26%	5%	21%	51%	21%	6%		
		3年	17%	51%	28%	4%						
	地域の魅力や資源について考える		1	2	3	4		1	2	3	4	
		知の探究コース	1年	28%	45%	25%	3%	21%	66%	8%	5%	
			2年	13%	36%	33%	18%	22%	44%	25%	9%	
	一般クラス	1年	27%	54%	18%	0%	27%	52%	18%	3%		
		2年	17%	60%	21%	2%	9%	37%	42%	11%		
		3年	9%	38%	33%	19%						
	31	地域の課題の解決方法について考える		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース			1年	28%	58%	13%	3%	24%	50%	24%	3%	
			2年	15%	44%	23%	18%	25%	44%	25%	6%	
一般クラス		1年	22%	58%	16%	3%	25%	51%	22%	2%		
		2年	18%	54%	25%	4%	6%	35%	45%	13%		
		3年	9%	36%	35%	19%						
32		日本や世界の課題の解決方法について考える		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	5%	43%	38%	13%	3%	32%	42%	24%
				2年	21%	41%	23%	15%	28%	50%	19%	3%
		一般クラス	1年	6%	54%	34%	5%	11%	34%	45%	10%	
	2年		16%	54%	27%	3%	9%	43%	39%	7%		
	3年		15%	41%	31%	12%						
	33	授業で分からない事を、自分から質問し、わかる人に聞く		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	23%	53%	25%	0%	13%	47%	29%	11%
				2年	18%	56%	15%	8%	38%	38%	19%	6%
		一般クラス	1年	16%	48%	30%	6%	13%	45%	35%	6%	
2年			9%	45%	39%	7%	15%	49%	27%	9%		
3年			19%	46%	29%	7%						
34		授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べる		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	28%	38%	35%	0%	26%	47%	13%	13%
				2年	38%	49%	10%	3%	34%	56%	9%	0%
		一般クラス	1年	20%	47%	27%	6%	14%	39%	41%	6%	
	2年		12%	44%	36%	8%	11%	46%	35%	7%		
	3年		19%	46%	29%	6%						
	35	自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求める		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	25%	48%	25%	3%	16%	58%	21%	5%
				2年	28%	44%	23%	5%	31%	38%	31%	0%
		一般クラス	1年	17%	52%	26%	5%	15%	40%	39%	4%	
2年			9%	52%	34%	5%	12%	45%	37%	6%		

36	友人などから、意見やアドバイスを求められて共に考える	3年	17%	49%	30%	4%						
		知の探究コース	1年	33%	53%	15%	0%	29%	61%	8%	3%	
			2年	41%	46%	10%	3%	41%	47%	9%	3%	
	一般クラス	1年	32%	54%	11%	1%	25%	50%	22%	3%		
		2年	20%	56%	21%	3%	18%	54%	23%	5%		
		3年	27%	50%	22%	2%						
	37	授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えて、調べる		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	18%	58%	23%	3%	26%	37%	32%	5%
				2年	23%	54%	23%	0%	38%	34%	28%	0%
		一般クラス	1年	16%	50%	32%	3%	13%	45%	38%	4%	
2年			11%	54%	30%	5%	8%	43%	41%	7%		
3年			14%	46%	35%	5%						
38		公式や決まりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりする		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	18%	38%	38%	8%	21%	29%	37%	13%
				2年	13%	41%	38%	8%	22%	38%	34%	6%
		一般クラス	1年	13%	43%	37%	6%	12%	31%	45%	12%	
	2年		10%	42%	42%	6%	6%	31%	47%	15%		
	3年		7%	37%	36%	20%						
	39	今住んでいる地域の行事に参加する		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	10%	38%	33%	20%	18%	39%	26%	16%
				2年	21%	26%	26%	28%	19%	34%	34%	13%
		一般クラス	1年	16%	41%	28%	15%	16%	37%	32%	15%	
2年			16%	41%	33%	10%	17%	35%	33%	15%		
3年			13%	36%	30%	20%						
40		地域社会などでボランティア活動に参加する		1	2	3	4		1	2	3	4
			知の探究コース	1年	10%	23%	45%	20%	13%	34%	21%	32%
				2年	23%	21%	23%	33%	25%	34%	31%	9%
		一般クラス	1年	9%	30%	40%	22%	9%	27%	43%	22%	
	2年		14%	37%	36%	12%	16%	36%	33%	15%		
	3年		18%	33%	29%	20%						

3 < 自己能力についての認識 > 現在の自分の能力や性質についての感じているか。

41	現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる	1	2	3	4		1	2	3	4	
		知の探究コース	1年	23%	50%	25%	3%	11%	61%	26%	3%
			2年	23%	59%	13%	5%	31%	59%	9%	0%
	一般クラス	1年	11%	66%	20%	3%	15%	50%	33%	2%	

42	自分で計画を立てて活動することができる	2年	13%	58%	28%	2%	R2 2年	13%	54%	31%	2%
		3年	18%	62%	20%	0%	R2 2年				
		1年	20%	40%	38%	3%	R2 1年	13%	50%	29%	8%
知の探究コース	2年	21%	41%	31%	8%	R2 2年	44%	38%	16%	3%	
	1年	15%	51%	33%	1%	R2 1年	10%	47%	34%	10%	
	2年	13%	48%	34%	5%	R2 2年	13%	47%	31%	9%	
一般クラス	3年	23%	46%	27%	4%	R2 2年					
	1年	13%	58%	30%	0%	R2 1年	13%	50%	29%	8%	
	2年	15%	49%	28%	8%	R2 2年	31%	50%	19%	0%	
うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる	1年	13%	56%	27%	4%	R2 1年	10%	47%	36%	6%	
	2年	14%	48%	34%	4%	R2 2年	11%	52%	34%	3%	
	3年	18%	56%	24%	2%	R2 2年					
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	1年	43%	55%	3%	0%	R2 1年	45%	42%	11%	3%	
	2年	51%	41%	8%	0%	R2 2年	44%	50%	6%	0%	
	1年	30%	58%	9%	2%	R2 1年	34%	54%	10%	2%	
一般クラス	2年	32%	53%	14%	2%	R2 2年	35%	54%	10%	2%	
	3年	48%	46%	7%	0%	R2 2年					
	1年	50%	48%	3%	0%	R2 1年	47%	47%	3%	3%	
相手の意見を丁寧に聴くことができる	2年	51%	44%	5%	0%	R2 2年	59%	38%	3%	0%	
	1年	41%	50%	8%	1%	R2 1年	33%	54%	10%	2%	
	2年	35%	55%	10%	1%	R2 2年	42%	50%	6%	2%	
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	3年	48%	48%	4%	1%	R2 2年					
	1年	28%	40%	30%	3%	R2 1年	24%	55%	18%	3%	
	2年	26%	54%	21%	0%	R2 2年	28%	47%	25%	0%	
知の探究コース	1年	19%	49%	28%	3%	R2 1年	19%	42%	34%	5%	
	2年	17%	48%	31%	4%	R2 2年	21%	45%	30%	5%	
	3年	26%	53%	19%	1%	R2 2年					
友達の前で発表することは得意である	1年	10%	33%	38%	20%	R2 1年	18%	24%	32%	26%	
	2年	23%	23%	44%	10%	R2 2年	22%	38%	28%	13%	
	1年	13%	35%	38%	13%	R2 1年	11%	32%	39%	18%	
一般クラス	2年	11%	35%	38%	16%	R2 2年	9%	29%	42%	20%	
	3年	15%	37%	38%	10%	R2 2年					

48	共同作業で自分の力が発揮できる	1年	18%	48%	35%	0%	R2 1年	21%	53%	18%	8%
		2年	15%	62%	21%	3%	R2 2年	28%	47%	22%	3%
		1年	16%	56%	23%	4%	R2 1年	14%	46%	37%	3%
一般クラス	2年	11%	51%	35%	3%	R2 2年	9%	46%	40%	5%	
	3年	14%	51%	31%	3%	R2 2年					
	1年	20%	33%	33%	15%	R2 1年	29%	34%	24%	13%	
家で、自主的に学習することができる	2年	36%	41%	18%	5%	R2 2年	34%	47%	13%	6%	
	1年	17%	45%	30%	8%	R2 1年	8%	33%	44%	15%	
	2年	9%	45%	38%	8%	R2 2年	15%	41%	34%	10%	
教科書外で得た情報を、勉強したことに関連付けて理解できる	3年	22%	51%	24%	4%	R2 2年					
	1年	18%	43%	35%	5%	R2 1年	21%	47%	26%	5%	
	2年	18%	54%	21%	8%	R2 2年	34%	41%	25%	0%	
知の探究コース	1年	12%	52%	28%	6%	R2 1年	13%	43%	39%	6%	
	2年	10%	42%	41%	6%	R2 2年	11%	44%	37%	9%	
	3年	20%	52%	25%	3%	R2 2年					
勉強したものを実際に応用してみることができる	1年	13%	50%	33%	5%	R2 1年	24%	29%	45%	3%	
	2年	10%	59%	26%	5%	R2 2年	22%	50%	28%	0%	
	1年	7%	46%	39%	6%	R2 1年	7%	38%	44%	10%	
一般クラス	2年	6%	39%	49%	6%	R2 2年	6%	40%	45%	9%	
	3年	14%	51%	30%	5%	R2 2年					
	1年	8%	28%	53%	13%	R2 1年	13%	24%	47%	16%	
知の探究コース	2年	13%	41%	44%	3%	R2 2年	13%	41%	44%	3%	
	1年	8%	32%	49%	10%	R2 1年	9%	25%	47%	19%	
	2年	6%	31%	54%	9%	R2 2年	2%	29%	53%	17%	
複雑な問題を順序だてて考えることが得意である	3年	9%	38%	43%	10%	R2 2年					
	1年	20%	43%	35%	3%	R2 1年	26%	50%	16%	8%	
	2年	18%	41%	41%	0%	R2 2年	16%	56%	16%	9%	
自分を客観的に理解することができる	1年	17%	46%	31%	4%	R2 1年	13%	41%	40%	6%	
	2年	13%	48%	35%	4%	R2 2年	14%	50%	33%	3%	
	3年	23%	50%	26%	2%	R2 2年					
国や地域の担い手として、政策決定に携わりたい	1年	10%	18%	53%	20%	R2 1年	8%	16%	47%	29%	
	2年	10%	18%	53%	20%	R2 2年					

55	地域をよりよくするために、地域の課題にかかわりたい	2年	8%	33%	36%	23%	19%	34%	31%	16%
		1年	4%	27%	45%	24%	11%	17%	48%	24%
		2年	10%	27%	48%	15%	5%	20%	42%	33%
		3年	13%	31%	39%	17%				
知の探究コース	知の探究コース	1年	15%	33%	38%	15%	5%	34%	47%	13%
		2年	15%	41%	26%	18%	19%	44%	28%	9%
		1年	7%	34%	44%	14%	7%	36%	45%	12%
		2年	8%	48%	35%	9%	4%	37%	43%	16%
一般クラス	一般クラス	2年	18%	38%	36%	8%				
		3年	18%	38%	36%	8%				
		1年	18%	40%	38%	5%	13%	42%	34%	8%
		2年	18%	44%	26%	13%	22%	38%	31%	9%
一般クラス	一般クラス	1年	13%	46%	29%	11%	14%	44%	33%	9%
		2年	16%	47%	31%	6%	15%	43%	30%	10%
		3年	28%	39%	26%	7%				
		1年	5%	30%	38%	28%	8%	26%	47%	18%
自分が困ることで社会は変えられると思っている	知の探究コース	2年	18%	31%	46%	5%	16%	44%	34%	6%
		1年	6%	29%	47%	17%	5%	31%	48%	15%
		2年	7%	37%	45%	12%	5%	35%	43%	17%
		3年	13%	38%	38%	11%				
社会の出来事に関心がある	一般クラス	1年	13%	38%	38%	11%				
		2年	17%	55%	26%	3%	17%	50%	27%	6%
		3年	29%	44%	23%	4%				
		1年	33%	45%	15%	8%	24%	42%	32%	3%
選挙権を得たら、投票に行く	知の探究コース	2年	21%	51%	23%	5%	28%	41%	28%	3%
		1年	18%	50%	27%	4%	15%	51%	29%	4%
		2年	17%	55%	26%	3%	17%	50%	27%	6%
		3年	29%	44%	23%	4%				
地域の課題と世界の課題は関連していると思う	一般クラス	1年	70%	23%	8%	0%	74%	21%	5%	0%
		2年	72%	26%	3%	0%	53%	47%	0%	0%
		1年	44%	38%	15%	1%	43%	44%	12%	2%
		2年	45%	36%	16%	3%	40%	36%	18%	6%
地域の課題と世界の課題は関連していると思う	知の探究コース	3年	59%	31%	8%	2%				
		1年	18%	55%	28%	0%	24%	61%	8%	8%
		2年	33%	51%	8%	8%	31%	47%	16%	6%
		1年	15%	54%	27%	4%	16%	48%	30%	5%

61	将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい	2年	15%	57%	22%	5%	11%	47%	35%	7%
		3年	20%	56%	22%	2%				
		1年	23%	45%	25%	8%	37%	34%	26%	0%
		2年	33%	38%	21%	8%	31%	44%	19%	3%
知の探究コース	一般クラス	1年	12%	40%	40%	8%	20%	38%	30%	10%
		2年	19%	47%	25%	9%	18%	46%	26%	8%
		3年	29%	39%	27%	5%				
		1年	3%	33%	45%	20%	11%	16%	42%	29%
将来、自分の今住んでいる地域で働きたい	知の探究コース	2年	13%	21%	36%	28%	13%	28%	34%	25%
		1年	9%	34%	43%	13%	9%	31%	43%	17%
		2年	8%	37%	42%	12%	9%	31%	41%	19%
		3年	22%	30%	34%	13%				
地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい	一般クラス	1年	1	2	3	4	1	2	3	4
		1年	3%	30%	50%	18%	8%	24%	50%	18%
		2年	5%	36%	41%	18%	19%	34%	34%	13%
		1年	4%	29%	51%	14%	7%	28%	54%	10%
自分の将来について明るい希望を持っている	一般クラス	2年	9%	38%	44%	9%	5%	33%	48%	14%
		3年	10%	39%	39%	12%				
		1年	20%	50%	23%	8%	26%	47%	13%	13%
		2年	15%	51%	15%	18%	22%	47%	28%	3%
自分には良いところがある	一般クラス	1年	11%	52%	32%	4%	16%	44%	33%	7%
		2年	15%	48%	33%	4%	18%	49%	26%	6%
		3年	32%	44%	19%	4%				
		1年	28%	55%	10%	5%	34%	42%	18%	5%
今の自分に満足している	知の探究コース	2年	28%	54%	13%	5%	44%	34%	19%	3%
		1年	18%	59%	21%	1%	21%	41%	32%	6%
		2年	16%	51%	27%	5%	19%	57%	21%	3%
		3年	35%	48%	15%	2%				
今の自分に満足している	知の探究コース	1年	5%	33%	45%	18%	11%	29%	39%	21%
		2年	10%	51%	15%	23%	22%	31%	34%	13%
		1年	6%	41%	43%	11%	9%	24%	43%	25%
		2年	6%	30%	49%	14%	4%	29%	43%	23%
今の自分に満足している	一般クラス	3年	15%	35%	35%	14%				

67	柏原高校に来てよかったと思っている	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	43%	55%	3%	0%	R2 1年	42%	45%	13%
		2年	26%	49%	21%	5%	R2 2年	41%	47%	13%
		一般クラス	1年	27%	57%	13%	2%	R2 1年	30%	46%
68	4<地域<の学習環境について意識>自分たちが住んでいる地域についてどのよう感じているか。 1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	25%	50%	18%	8%	R2 1年	13%	47%	29%
		2年	10%	56%	31%	3%	R2 2年	50%	31%	16%
		一般クラス	1年	15%	56%	22%	5%	R2 1年	14%	53%
69	挑戦する人に対して応援する雰囲気がある	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	38%	45%	13%	5%	R2 1年	13%	53%	29%
		2年	28%	51%	15%	5%	R2 2年	41%	47%	13%
		一般クラス	1年	22%	58%	16%	3%	R2 1年	18%	55%
70	目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	35%	48%	15%	3%	R2 1年	21%	47%	24%
		2年	31%	46%	21%	3%	R2 2年	41%	44%	16%
		一般クラス	1年	16%	61%	17%	4%	R2 1年	14%	55%
71	地域に尊敬する・あこがれている大人がいる	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	18%	30%	28%	23%	R2 1年	11%	26%	39%
		2年	23%	21%	31%	26%	R2 2年	16%	47%	25%
		一般クラス	1年	11%	34%	35%	18%	R2 1年	10%	32%
72	人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	10%	45%	33%	13%	R2 1年	3%	21%	53%
		2年	26%	36%	28%	10%	R2 2年	28%	28%	38%
		一般クラス	1年	7%	46%	33%	13%	R2 1年	8%	32%

73	自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	40%	45%	13%	3%	R2 1年	29%	63%	5%
		2年	38%	49%	8%	5%	R2 2年	53%	41%	6%
		一般クラス	1年	25%	53%	18%	3%	R2 1年	22%	59%
74	人と違うことが尊重される雰囲気がある	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	8%	45%	48%	0%	R2 1年	11%	37%	42%
		2年	15%	38%	36%	8%	R2 2年	19%	44%	38%
		一般クラス	1年	9%	59%	22%	8%	R2 1年	7%	49%
75	ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	15%	48%	35%	3%	R2 1年	13%	66%	16%
		2年	18%	54%	23%	5%	R2 2年	25%	56%	16%
		一般クラス	1年	14%	58%	22%	5%	R2 1年	9%	58%
76	自分と異なる立場、役割を持つ人とのかかわりがある	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	30%	48%	23%	0%	R2 1年	34%	34%	29%
		2年	26%	41%	26%	8%	R2 2年	38%	38%	22%
		一般クラス	1年	15%	52%	30%	3%	R2 1年	16%	50%
77	将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	1	2	3	4	1	2	3	4	
		1年	18%	38%	30%	15%	R2 1年	24%	47%	18%
		2年	23%	46%	21%	10%	R2 2年	31%	47%	19%
		一般クラス	1年	16%	47%	23%	11%	R2 1年	21%	44%

## 調査結果より

ここでは、昨年度の事業報告書で注目した点に絞って今年度と比較する。

指定初年度での調査によって明らかとなった他校と比べて数値が高い項目は、グループ学習や自分が学んだと考える内容、地域に対する見方、これからの行動に対する意識が変化してきたかどうかについての設問などであった。

まずは、昨年度の報告書内で一昨年度と比べて「向上した」と述べた項目について、今年度の変化についてみる。

### 「23 グループで協力しながら学習、調べものをする事が多い」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度(R1)調査 <sup>※1</sup>	全体	89%(184)	85%(210)	
昨年度(R2)調査	知探	97%(38)	84%(32)	
	一般	91%(195)	89%(175)	
今年度(R3)調査	知探	93%(40)	90%(39)	
	一般	94%(158)	84%(196)	84%(181)

( )内は調査数

※1 R1調査の数値は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校魅力化評価システム」を用いて出されたもの。

R1調査の数値は学年全体のものでクラス毎の数は出されていない。

「高校魅力化評価システム」は指定初年度だけ行われそれ以降の調査項目は、このシステムの質問項目を基にして本校独自で設定したものである。

#### R3調査からみるR2調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	55%	38%	5%	3%	R2 1年	71%	26%	0%	3%
	2年	49%	41%	10%	0%	R2 2年	50%	34%	9%	6%
一般クラス	1年	53%	41%	5%	0%	R2 1年	48%	43%	8%	1%
	2年	41%	43%	13%	3%	R2 2年	52%	37%	10%	1%
	3年	30%	54%	13%	4%	R2 2年				

3年間を通してみても高い数値となっている。各教科でのアクティブラーニングや探究活動の活動量の増加と定着が進んでいっているからではないだろうか。しかし、1 と回答した割合に着目してみると、R2年度調査に比べて進級した生徒らが属しているR3年度調査では低下している。この低下の背景には、展開されるグループ活動が形式化されたものであったり、生徒ら自身がグループ活動慣れてしまっただけで価値が薄まっていることが考えられるが、低下した原因については本調査項目だけでは明らかにできない。

次に、昨年度報告書において、「低下した」とした項目について、今年度の変化についてみる。

### 33 「授業でわからないところを自分から質問したり、わかる人に聞いたりした」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度(R1)調査※1	全体	77%(184)	72%(210)	
昨年度(R2)調査	知探	60%(38)	76%(32)	
	一般	58%(195)	64%(175)	
今年度(R3)調査	知探	76%(40)	74%(39)	
	一般	64%(158)	54%(196)	65%(181)

( )内は調査数

#### R3 調査からみる R2 調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	23%	53%	25%	0%	R2 1年	13%	47%	29%	11%
	2年	18%	56%	15%	8%	R2 2年	38%	38%	19%	6%
一般クラス	1年	16%	48%	30%	6%	R2 1年	13%	45%	35%	6%
	2年	9%	45%	39%	7%	R2 2年	15%	49%	27%	9%
	3年	19%	46%	29%	7%	R2 2年				

昨年度は1年生の数値が下がっていたが、今年度は一昨年度並みの数値に近づいた。昨年度はコロナによって休校期間で協働学習の機会が少なかったが、対面授業が再開された今年度には回復したと考えられる。一方で、一般クラスの2年生では昨年より10ポイントも低いまた、現在の2年生は、昨年1年生であった時の数値よりも低下している。

探究学習が普段の学習にも活かされているかに着目する。

### 21 「主体的に調べものや取材を行う」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度(R1)調査※1	全体	54%(184)	54%(210)	
昨年度(R2)調査	知探	87%(38)	94%(32)	
	一般	80%(195)	82%(175)	
今年度(R3)調査	知探	86%(40)	97%(39)	
	一般	86%(158)	80%(196)	74%(181)

( )内は調査数

#### R3 調査からみる R2 調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	28%	58%	15%	0%	R2 1年	37%	50%	11%	3%
	2年	33%	64%	3%	0%	R2 2年	63%	31%	6%	0%
一般クラス	1年	32%	54%	13%	1%	R2 1年	26%	54%	18%	1%
	2年	27%	53%	18%	3%	R2 2年	25%	57%	14%	4%
	3年	22%	52%	23%	3%	R2 2年				

昨年大きく数字を伸ばした項目である。今年度も同程度の数値となり、経年比較においても維持し



ている。昨年より全体で探究活動に取り組んでおり、探究活動を通じた学びが生徒たちの意識に結び付いている成果と信じたい。

最後に、この事業を通して学んだことがどう意識に結び付いたかについてみる。

### 31 「地域の課題解決法について考える」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度 (R1) 調査※1	全体	44%(184)	41%(210)	
昨年度 (R2) 調査	知探	74%( 38)	69%( 32)	
	一般	76%(195)	41%(175)	
今年度 (R3) 調査	知探	86%( 40)	59%( 39)	
	一般	80%(158)	72%(196)	45%(181)

( )内は調査数

#### R3 調査からみる R2 調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	28%	58%	13%	3%	R2 1年	24%	50%	24%	3%
	2年	15%	44%	23%	18%	R2 2年	25%	44%	25%	6%
一般クラス	1年	22%	58%	16%	3%	R2 1年	25%	51%	22%	2%
	2年	18%	54%	25%	4%	R2 2年	6%	35%	45%	13%
	3年	9%	36%	35%	19%	R2 2年				

特に、「地域の魅力」について学んだ1年生の数値が高い。一方で、2年生の数値の低下が大きい。知探では15ポイント低下した。探究Ⅱのテーマ設定が、地域の課題に対するものでなかったものが多くなったことが要因と考えられる。

### 32 「日本や世界の課題の解決方法について考える」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度 (R1) 調査※1	全体	47%(184)	35%(210)	
昨年度 (R2) 調査	知探	35%( 38)	78%( 32)	
	一般	44%(195)	52%(175)	
今年度 (R3) 調査	知探	48%( 40)	62%( 39)	
	一般	60%(158)	70%(196)	55%(181)

( )内は調査数

#### R3 調査からみる R2 調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	5%	43%	38%	13%	R2 1年	3%	32%	42%	24%
	2年	21%	41%	23%	15%	R2 2年	28%	50%	19%	3%
一般クラス	1年	6%	54%	34%	5%	R2 1年	11%	34%	45%	10%
	2年	16%	54%	27%	3%	R2 2年	9%	43%	39%	7%
	3年	15%	41%	31%	12%	R2 2年				

ここでは「台湾学習」を進めた一般クラスの2年生の向上が著しい。知探の2年生においては、台湾との交流がプログラムにない中で、課題研究の中で視点を海外にも向けさせたことが向上につながったのではないかと。

### 56 「将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい」

#### 各年度の比較

1 2 と回答した合計数の割合		1年	2年	3年
一昨年度(R1)調査※1	全体	73%(184)	68%(210)	
昨年度(R2)調査	知探	55%(38)	60%(32)	
	一般	58%(195)	58%(175)	
今年度(R3)調査	知探	58%(40)	62%(39)	
	一般	59%(158)	63%(196)	67%(181)

( )内は調査数

#### R3 調査からみる R2 調査からの推移

		1	2	3	4		1	2	3	4
知の探究コース	1年	18%	40%	38%	5%	R2 1年	13%	42%	34%	8%
	2年	18%	44%	26%	13%	R2 2年	22%	38%	31%	9%
一般クラス	1年	13%	46%	29%	11%	R2 1年	14%	44%	33%	9%
	2年	16%	47%	31%	6%	R2 2年	15%	43%	30%	10%
	3年	28%	39%	26%	7%	R2 2年				

R1 調査から大きく低下した項目であったが、向上の兆しが見える。特に、進路選択を控えた3年生の数値が一番高くなっており、年次が進むにごとに向上している。

以上、項目を絞って比較をしてきた。これらの項目にさらなる分析に加えるとともに、他の項目についても学校や地域に向けて発信して共有し、考察を深めていきたい。